

住民向けアンケート結果

令和2年2月5日

令和元年台風第19号等による災害からの避難に関するワーキンググループ
(第2回) 資料より

住民向けアンケート概要

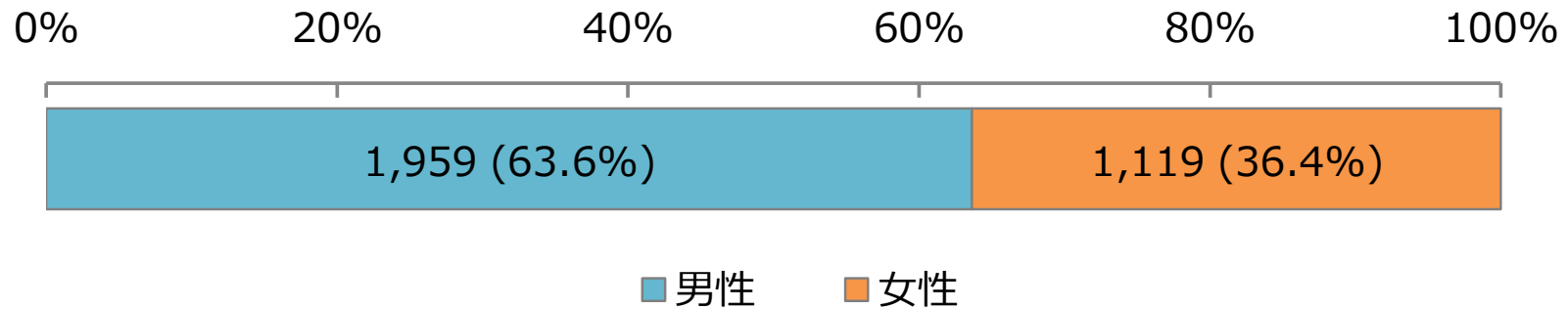
対象：台風第19号により人的被害が生じた市町村のウェブモニター

人数：3,078人

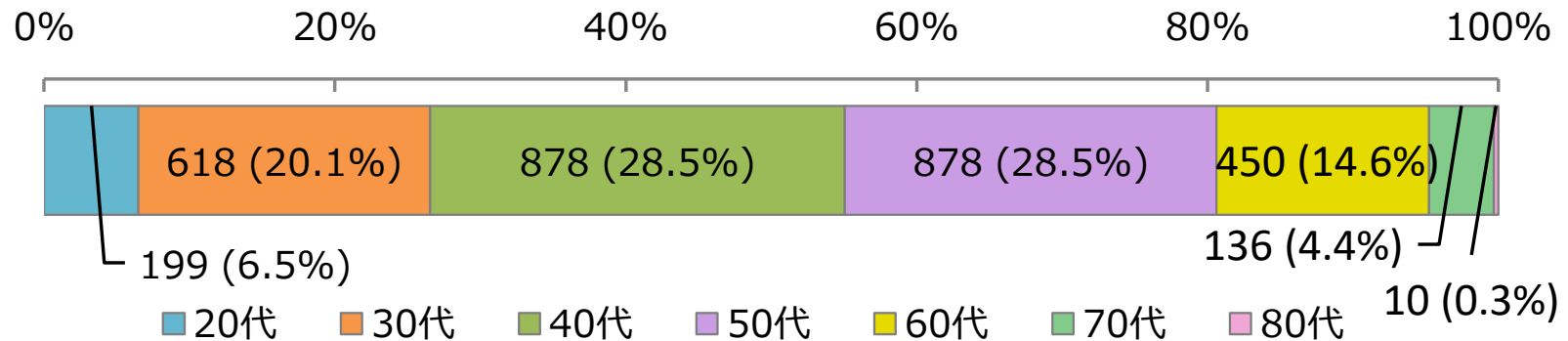
形式：選択式（一部記述式）

実施日：令和2年1月11日（土）～13日（月）

性別



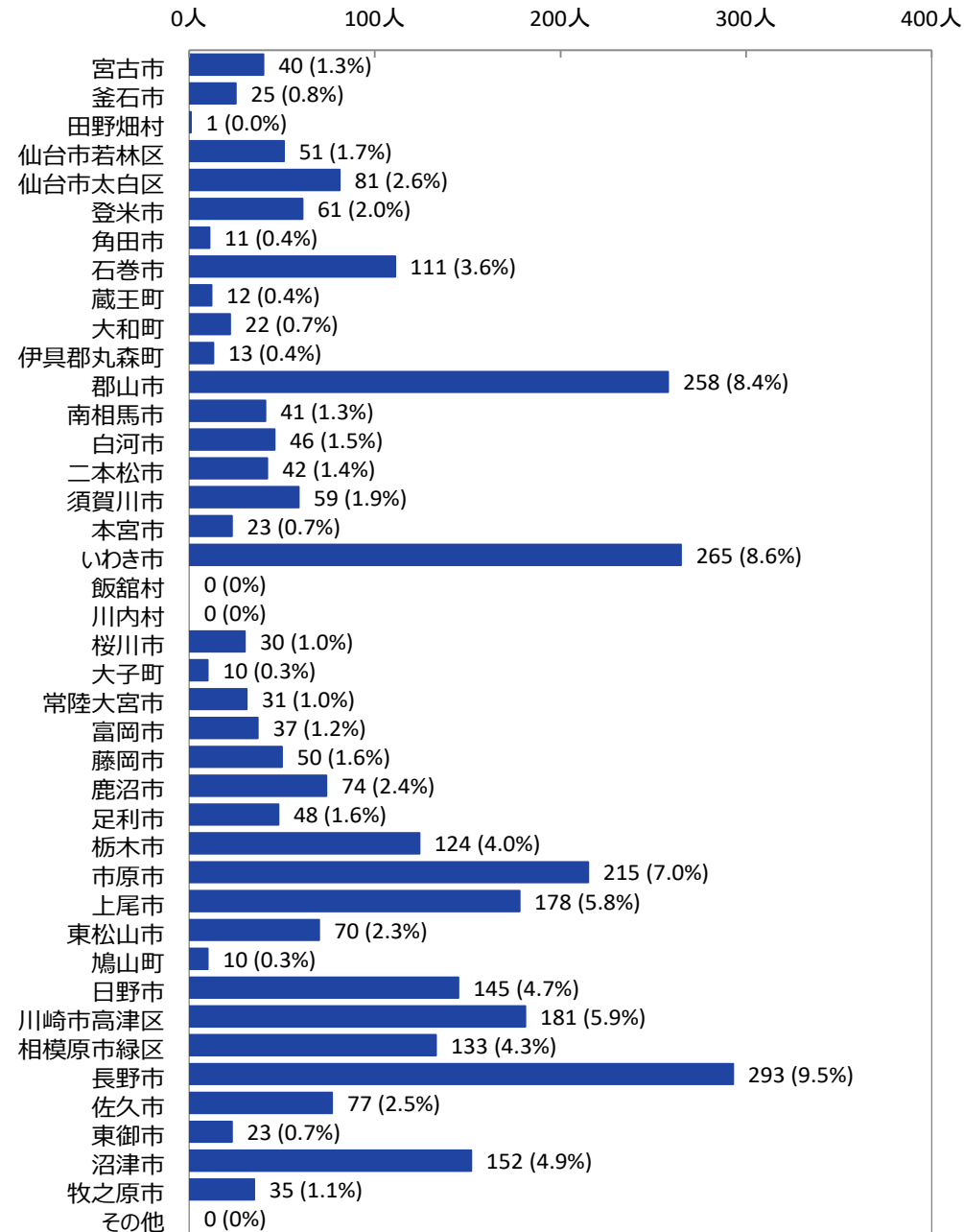
年代



居住市町村

○ 台風19号接近当時の、あなたのお住まいの市町村をお答えください。

n=3078



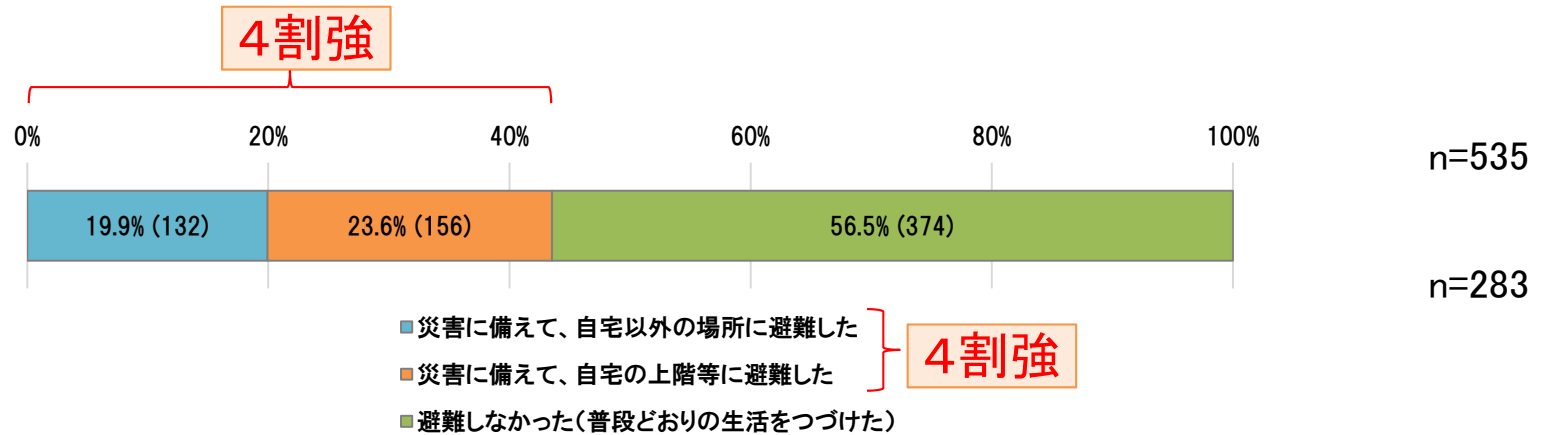
Q1 避難したか

<分析・考察>

- ハザードマップ等を見たことがあり、かつ自宅が洪水の危険又は土砂災害の危険がある区域(浸水想定区域、土砂災害警戒区域等)に入っていると回答した人のうち**4割強**の人がなんらかの避難行動を行った。
- ハザードマップ等を見たことがない、自分が住む市町村ではハザードマップ等が公表されていないと回答した人のうち、何らかの避難行動を行った人は**1~2割**であり、**ハザードマップ等を見たことがあり、自宅の災害リスクを認識していた人とそうでない人とでは避難行動に大きな差がある。**

どのような避難行動をとったか

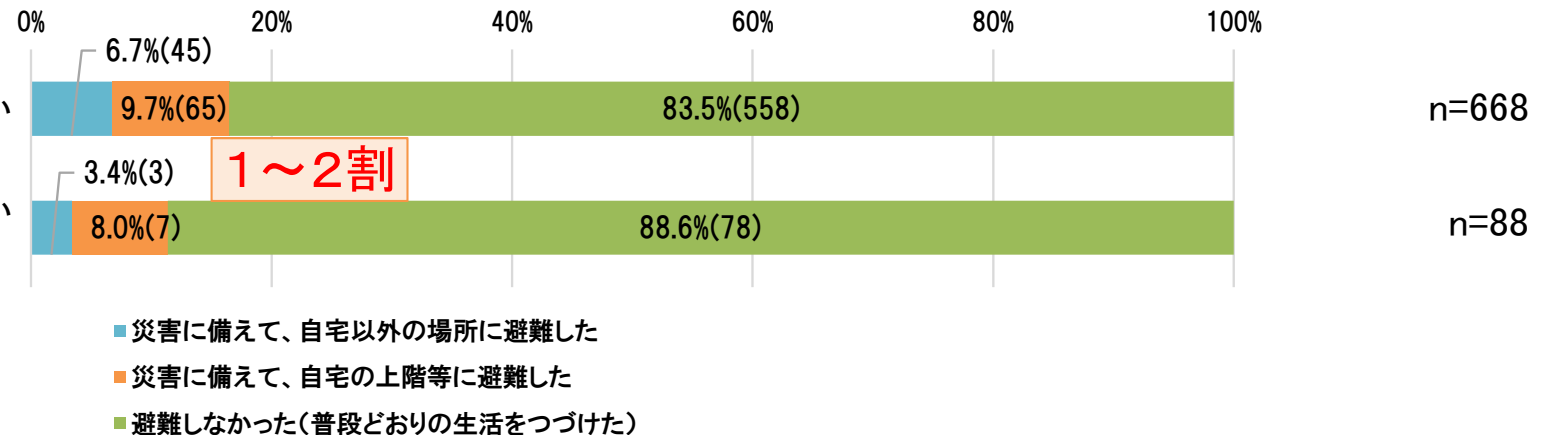
ハザードマップ等を見たことがあり、かつ自宅が洪水の危険又は土砂災害の危険がある区域(浸水想定区域、土砂災害警戒区域等)に入っている



どのような避難行動をとったか

ハザードマップ等を見たことがない

自分が住む市町村ではハザードマップ等が公表されていない

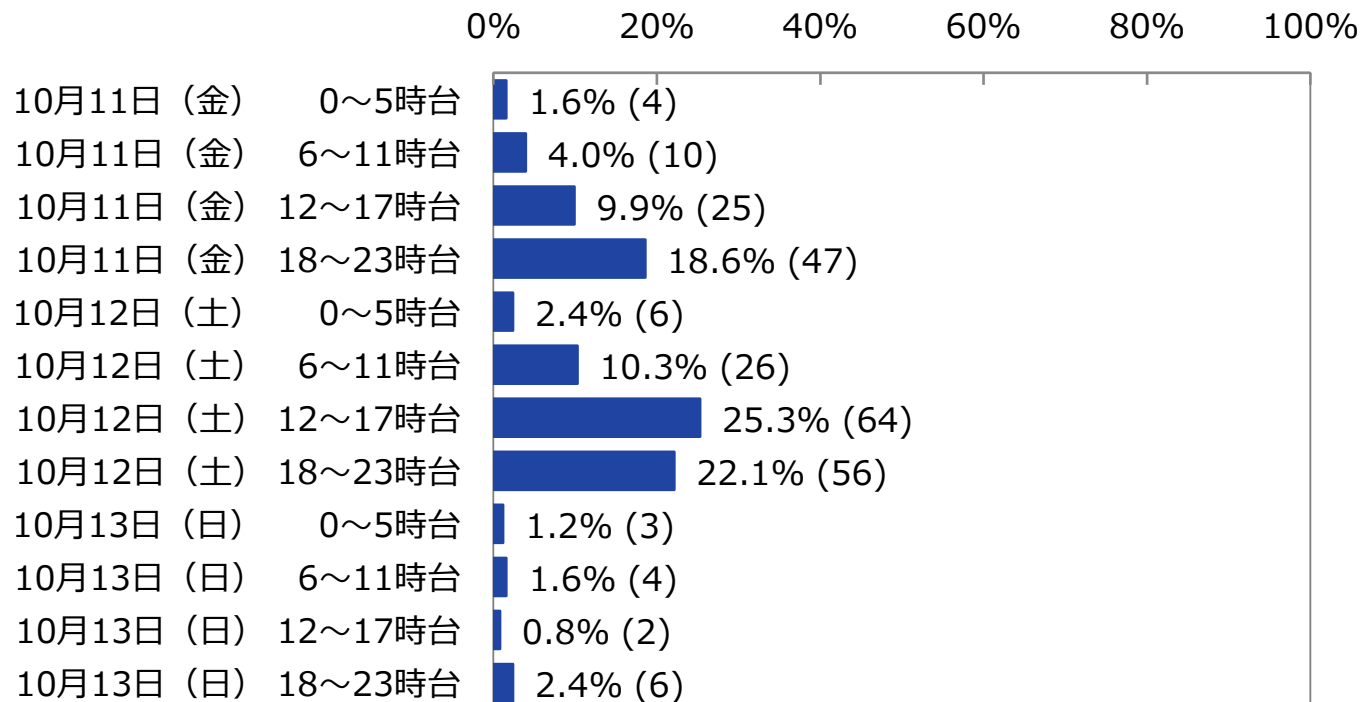
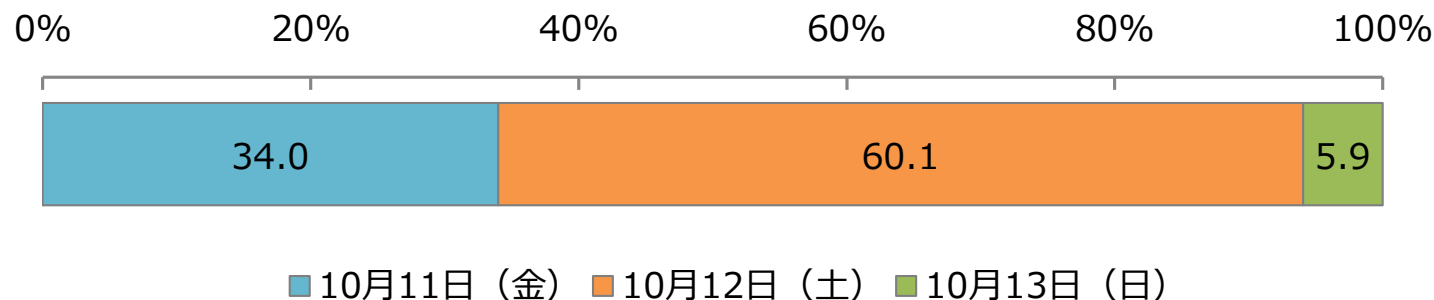


Q2 いつ避難したか

<分析・考察>

- 立退き避難をした人のうち、まだそれほど降雨が強くない10月11日の段階から3割以上の人
- ※地域ごとの避難の特徴は特段見られなかった

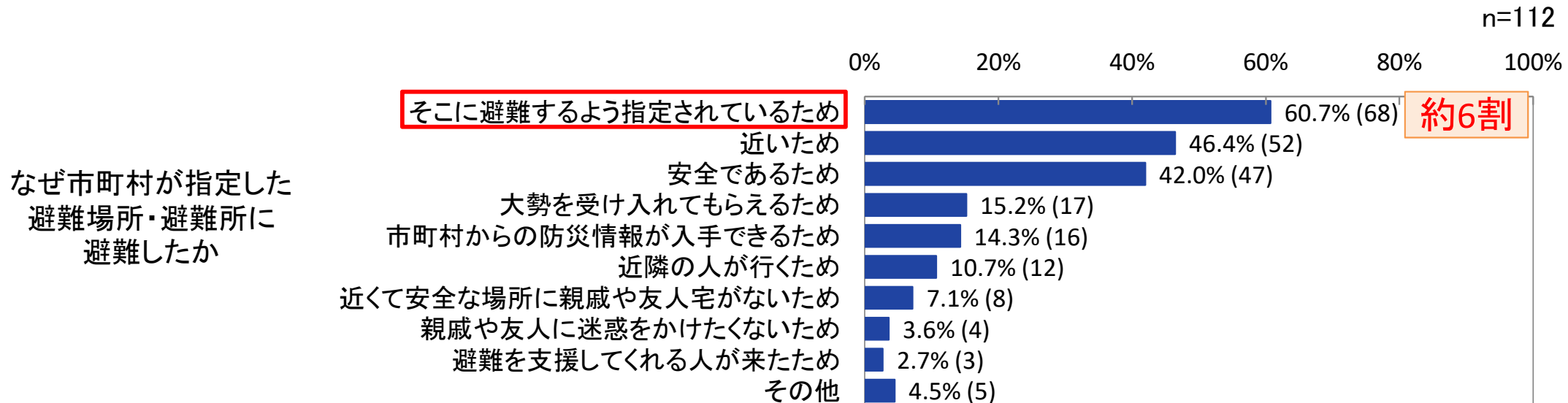
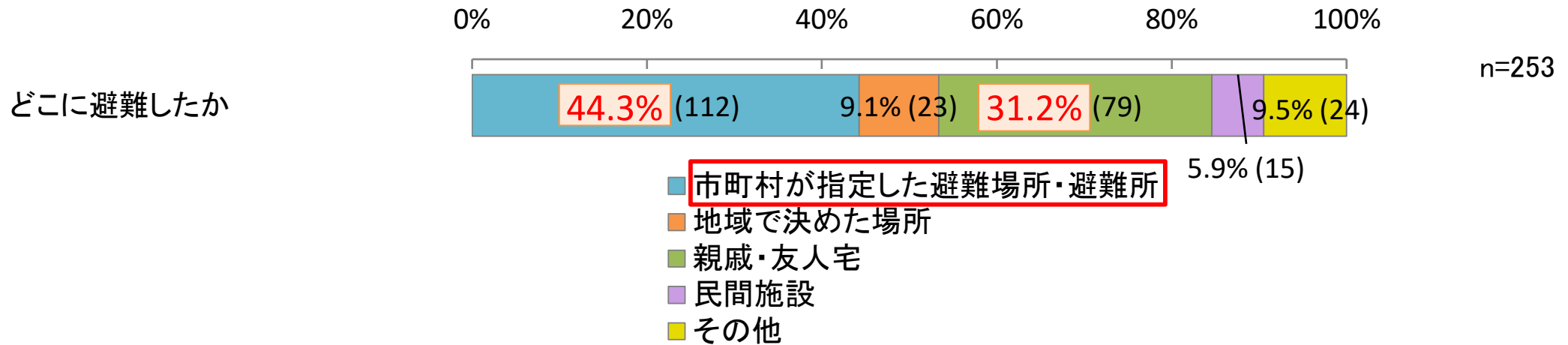
n=253



Q3 どこに避難したか

<分析・考察>

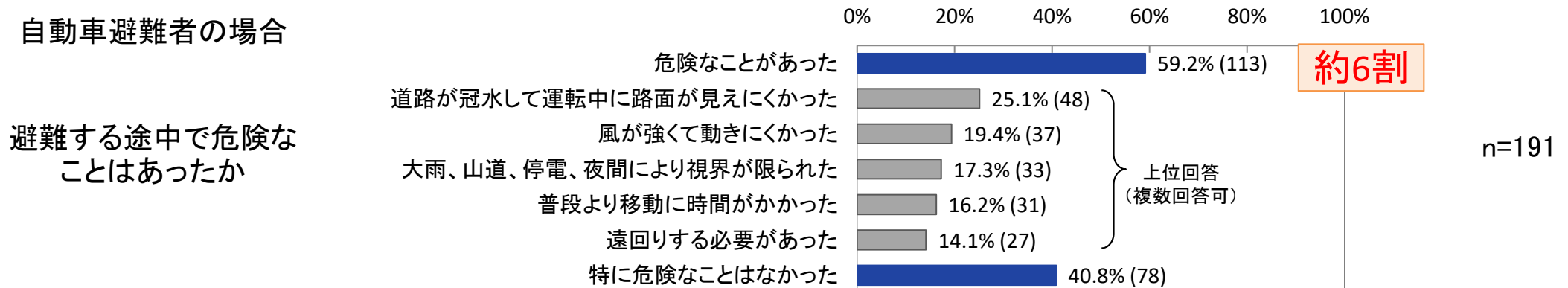
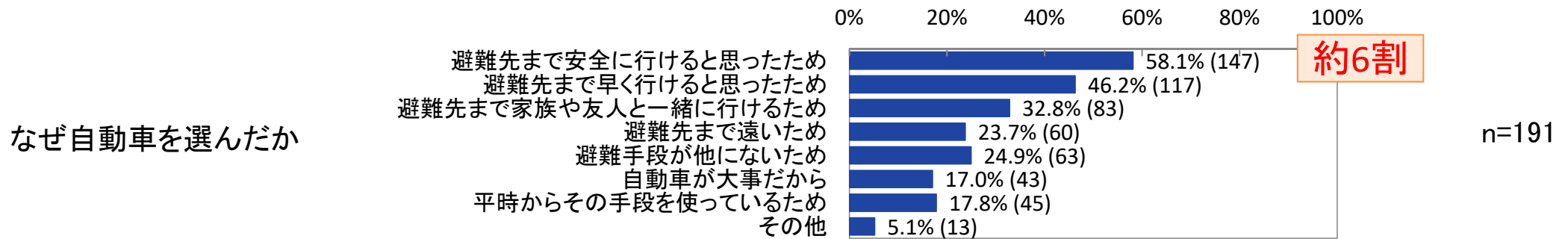
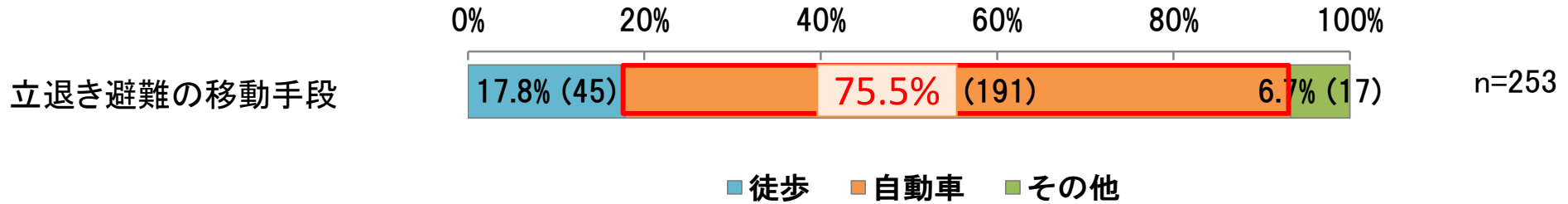
- 自宅以外の場所に避難した人のうち**44.3%**の人が「市町村が指定した避難場所・避難所」に避難した。
- そのうち**約6割**の人がそうした理由の一つとして「そこに避難するように指定されているため」を挙げている。
- 親戚・友人宅に避難した人は**31.2%**であった。



Q4 避難の手段

<分析・考察>

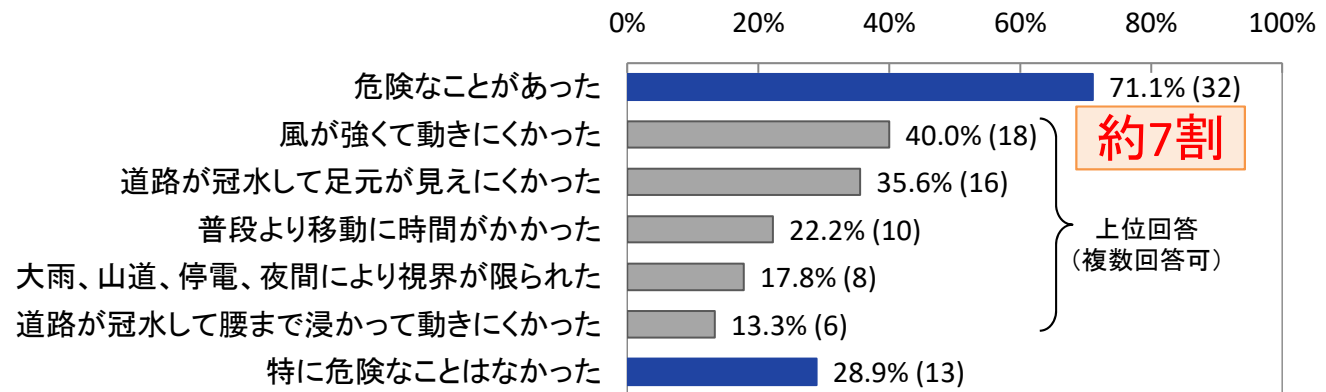
- 車で立退き避難した人が**75.5%**おり、そのうち、「避難先まで安全にいけると思った」ために、車を選択した人は**約6割**おり、車の移動途中に何らかの危険性があった人は**約6割**であった。
- 大雨、洪水時の車での移動は安全なように思われているが、安全とは感じられていない人もいた。**



Q4 避難の手段

徒歩避難者の場合

避難する途中で危険な
ことはあったか

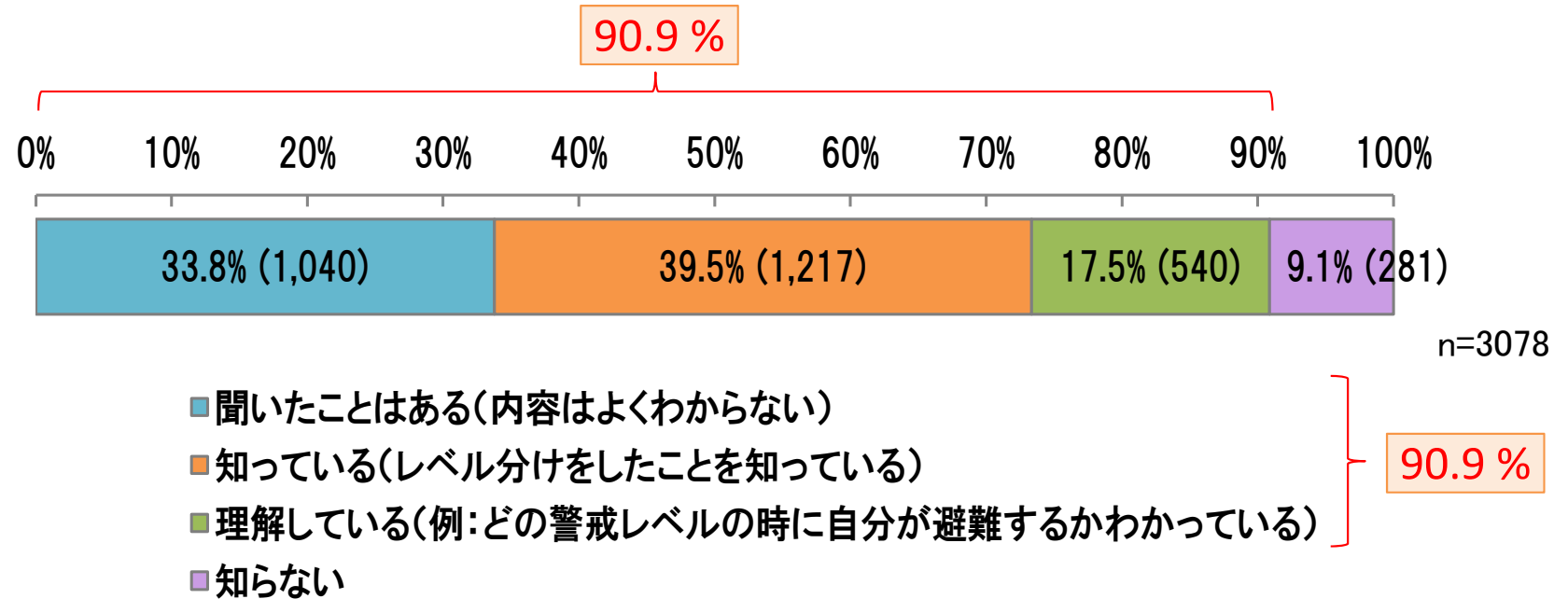


n=45

Q5 警戒レベルの認知

<分析・考察>

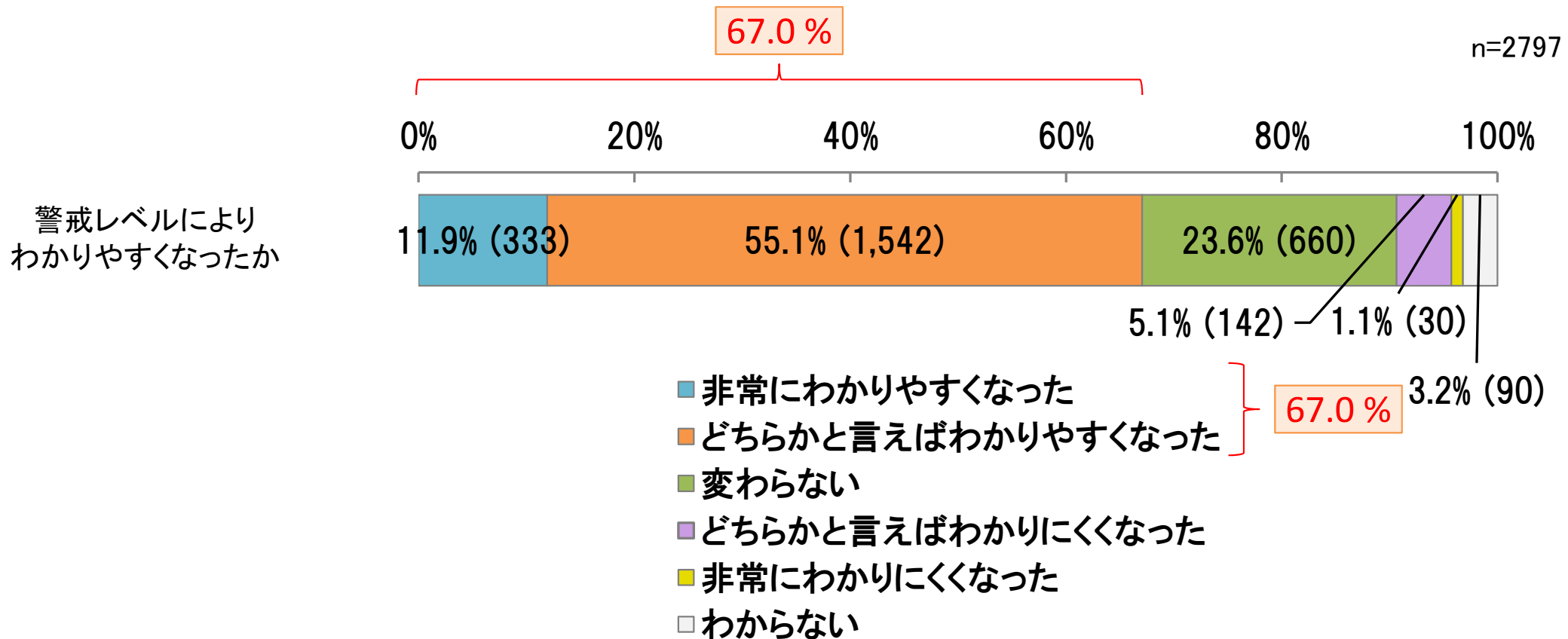
- 警戒レベルの理解の度合いに差はあるものの、**9割以上の方が警戒レベルを認知している。**



Q6 警戒レベルによりわかりやすくなったか

<分析・考察>

- 「非常にわかりやすくなった」、「どちらかといえばわかりやすくなった」を合わせると**7割近くの人がわかりやすくなったと回答。**

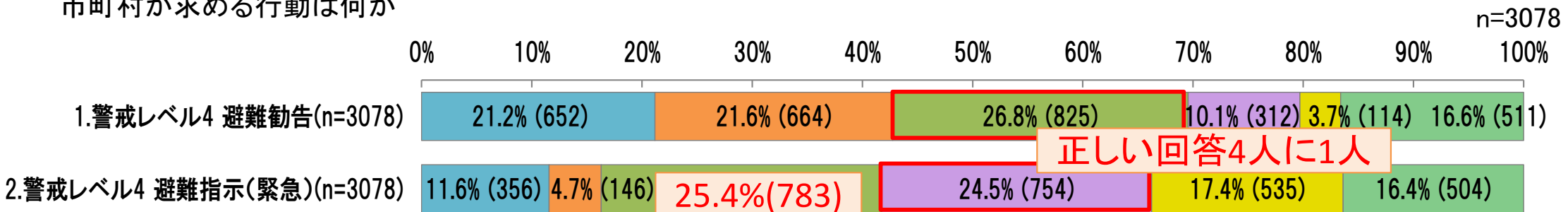


Q7 警戒レベル4が求める行動

<分析・考察>

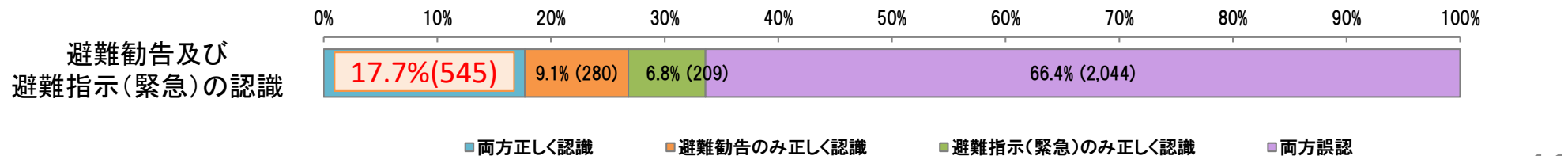
- 避難勧告は「避難を開始すべきタイミングであり速やかに避難する」、避難指示(緊急)は「避難を開始すべきタイミングを過ぎており身の安全に配慮しつつ速やかに避難する」が正しい回答
- 正しく認識していた人はいずれも4人に1人程度**であった。
- 避難指示(緊急)については「**避難を開始すべきタイミングであり速やかに避難する**」と**誤って認識している人が25.4%**と**一番割合として多かった**。
- 避難勧告及び避難指示(緊急)の両方を正しく認識していたのは**17.7%**であった。

市町村が求める行動は何か



- 避難の準備を始める
- まだ避難を開始すべきタイミングではないが自主的に避難する
- 避難を開始すべきタイミングであり速やかに避難する
- 避難を開始すべきタイミングを過ぎており身の安全に配慮しつつ速やかに避難する
- すでに災害が発生しており命を守る行動をとる
- わからない

避難勧告及び避難指示(緊急)の両方を正しく認識していたのは**17.7%**

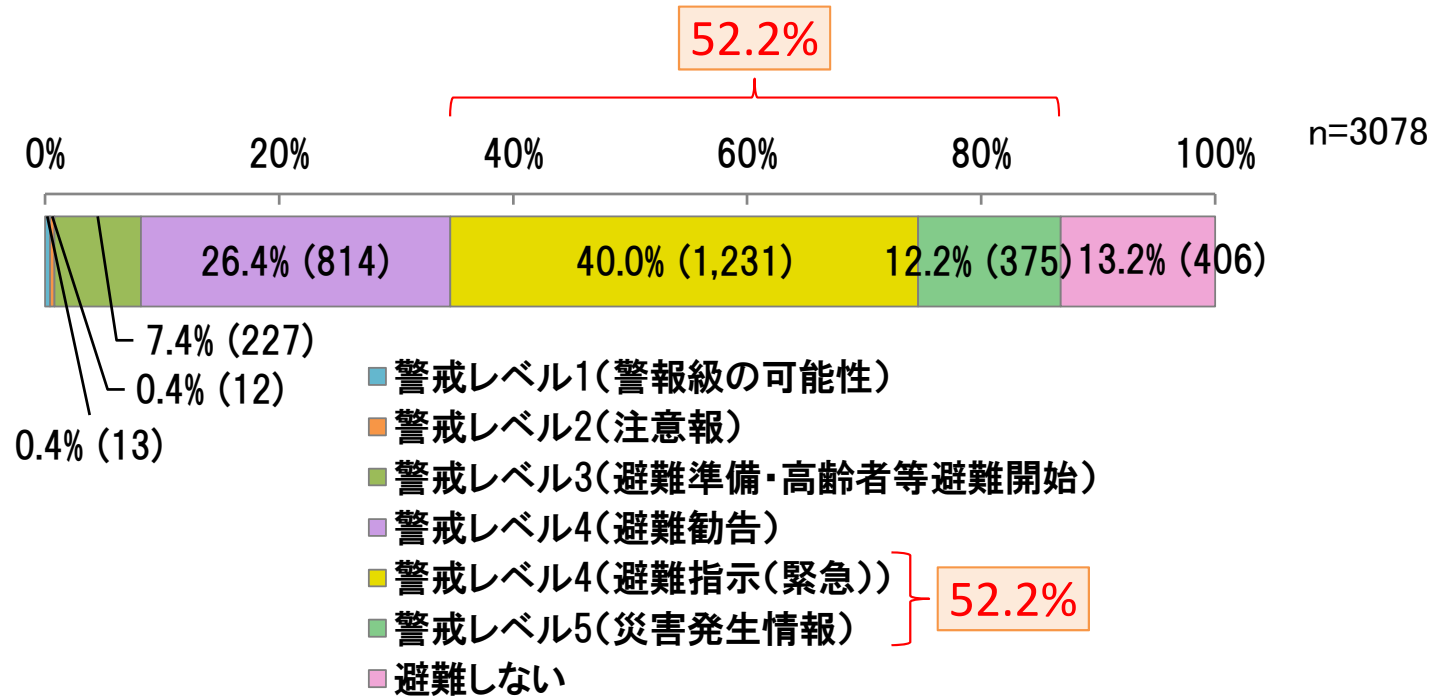


Q8 実際に避難する警戒レベル

<分析・考察>

- 避難を開始すべきタイミングは警戒レベル4「避難勧告」であるが、約4割が警戒レベル4「避難指示(緊急)」、1割強が警戒レベル5「災害発生情報」で避難するとしており、**約半数(52.2%)が望ましくない回答**をしている。

実際にはどのタイミングで避難するか



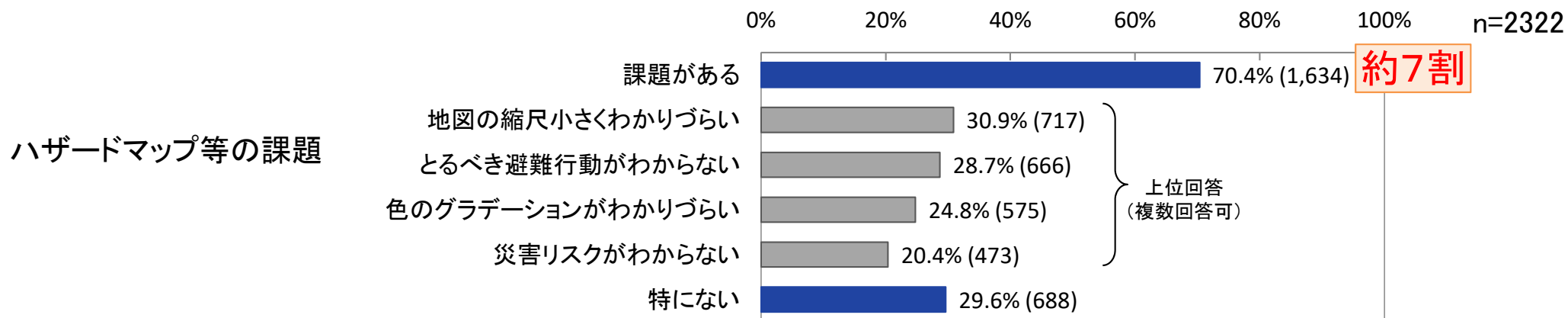
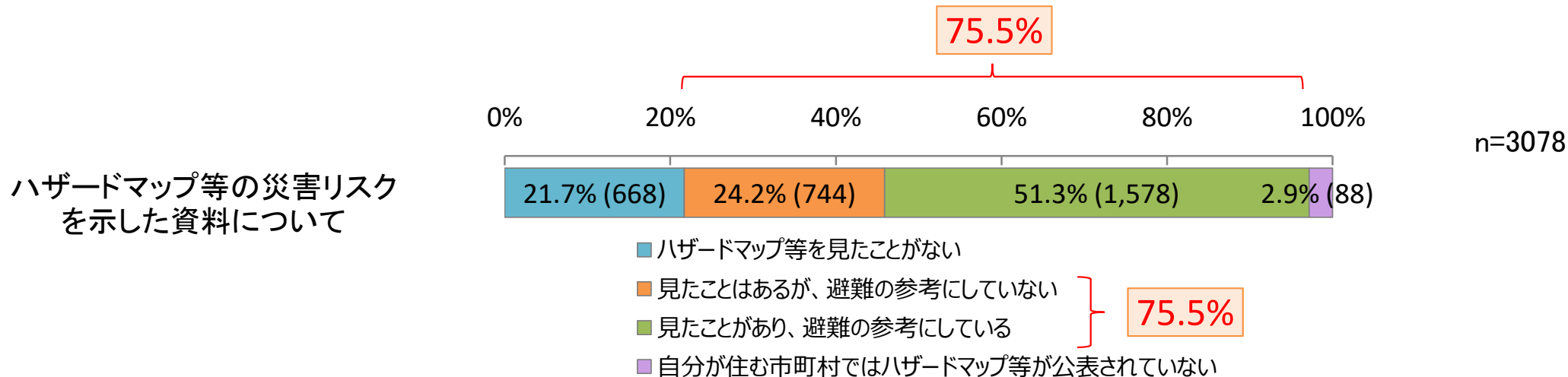
<警戒レベル関係の問の全体考察(Q4からQ7)>

- 9割の人が「警戒レベル」を認知し、7割が分かりやすくなった、と回答しているが、警戒レベル4の避難勧告・避難指示(緊急)を正確に理解している人は2割弱であり、約半数が望ましくない回答をしていることから、一定の周知はなされたものの、その内容が十分に理解されているとは言えない。

Q9 ハザードマップ等の資料の認知

<分析・考察>

- ハザードマップを「見たことはあるが、避難の参考にしていない」、「見たことがあり、避難の参考になっている」を合わせると**75.5%**はハザードマップ等を見たことがあると回答している。
- ハザードマップ等を見たことがある人のうち、**ハザードマップ等に何かしらの課題があると考えている人が約7割**近くいる。



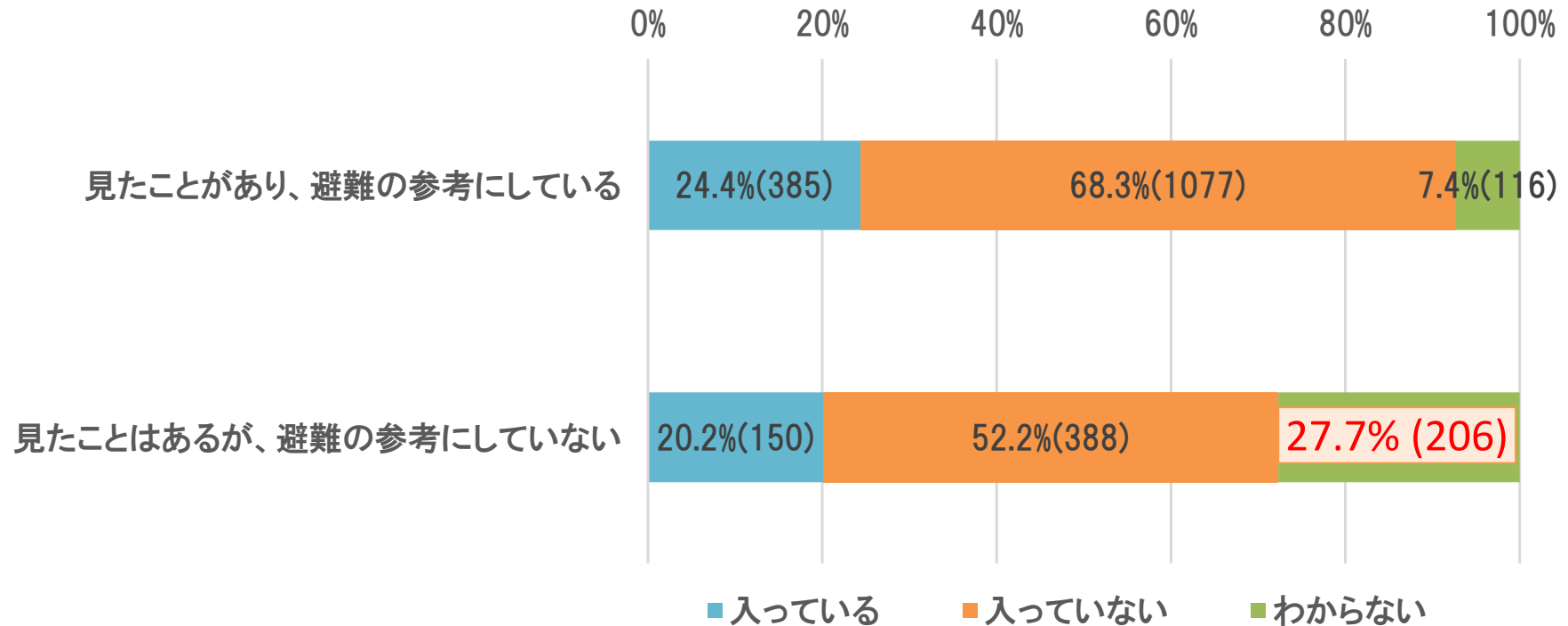
Q9 ハザードマップ等の資料の認知

<分析・考察>

○ ハザードマップ等を見ているものの、避難の参考にしていない人のうち、27.7%の人は、自宅が浸水想定区域に入っているかわからないと回答している。

○ ハザードマップ等の更なる活用等が望まれる。

n=2322

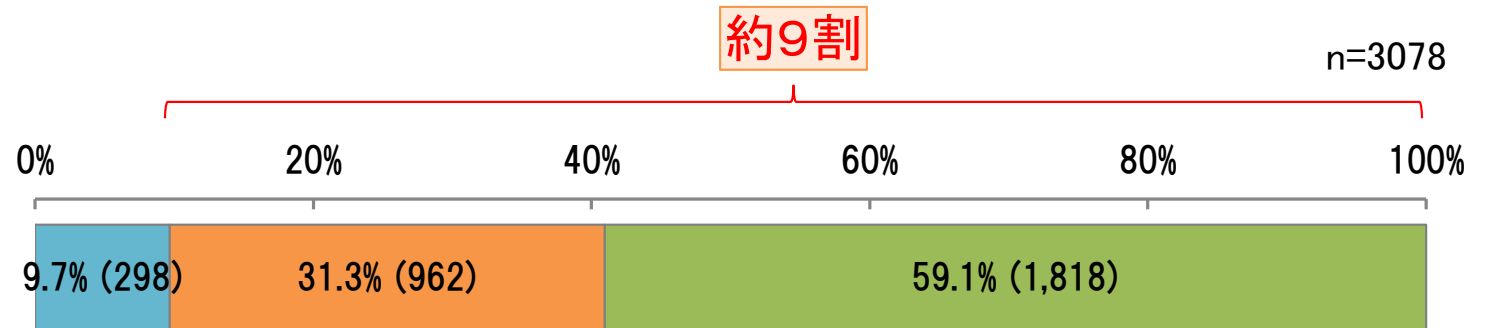


Q10 指定緊急避難場所と指定避難所の違いの認知

<分析・考察>

- 指定緊急避難場所と指定避難所の違いについて「2種類あることは知っているが、役割の違いは知らない」、「2種類あることも、役割の違いも知らない」の回答を合わせると**約9割を超え、ほとんどの人が違いを理解していない**。

「指定緊急避難場所」と「指定避難所」の違いについて



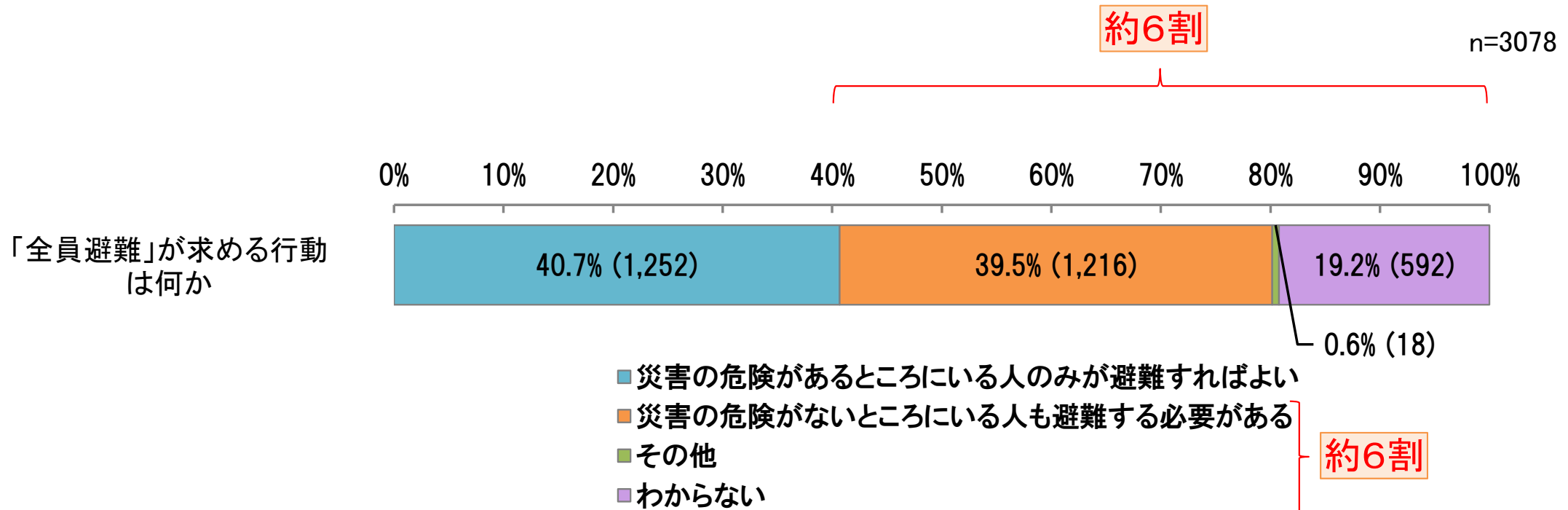
- 2種類あることを知っており、役割の違いも知っている
- 2種類あることは知っているが、役割の違いは知らない
- 2種類あることも、役割の違いも知らない

約9割

Q11 「全員避難」の認識

<分析・考察>

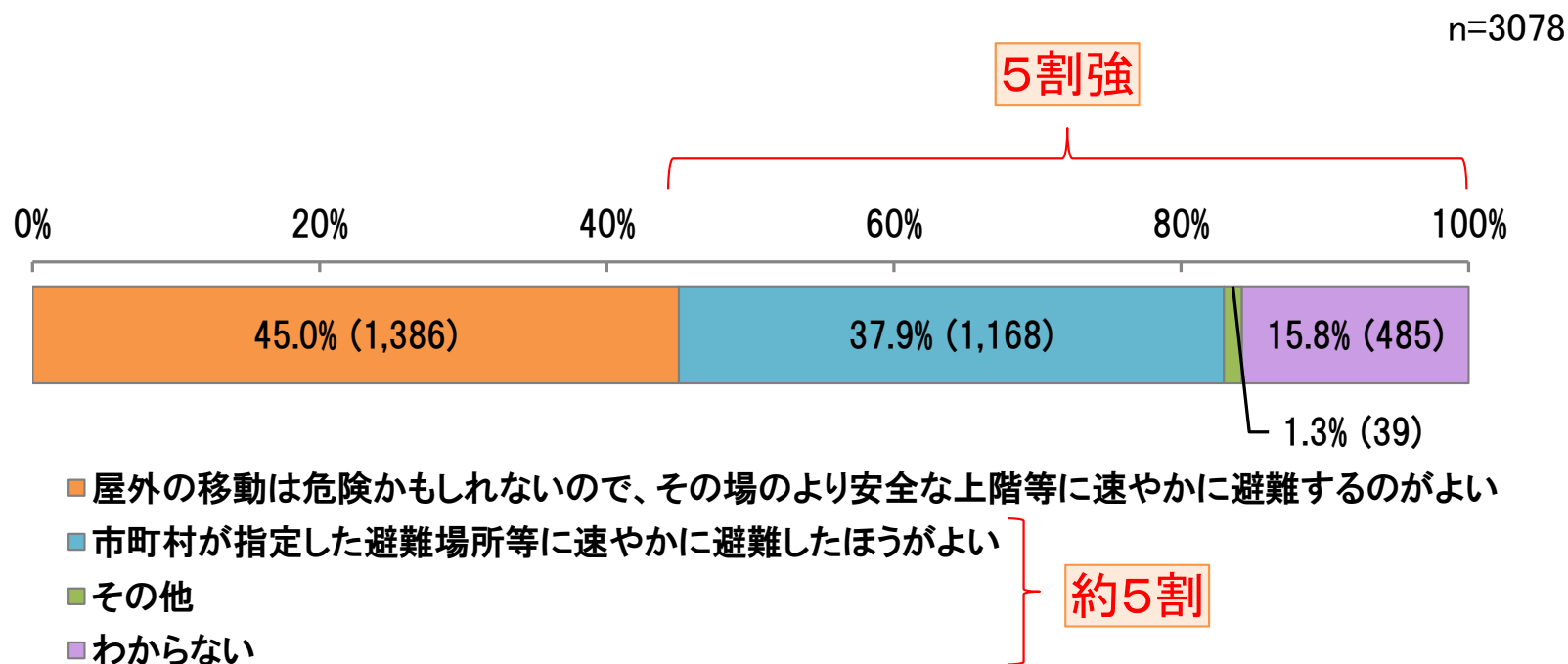
- 全員避難を「災害の危険がないところにいる人も避難する必要がある」と認識している人が約4割、「わからない」と回答した人が約2割おり、合わせて**約6割の人に適切に伝わっていない**。



Q12 警戒レベル5が求める行動の認識

<分析・考察>

- 警戒レベル5「災害発生情報」について「市町村が指定した避難場所等に速やかに避難したほうがよい」と回答した人が約4割弱、「わからない」と回答した人が約2割弱であり、合わせて**5割強の人に適切に伝わっていない**。



「命を守る最善の行動」が
求める行動は何か

- 屋外の移動は危険かもしれないので、その場のより安全な上階等に速やかに避難するのがよい
- 市町村が指定した避難場所等に速やかに避難したほうがよい
- その他
- わからない